

【学位論文審査の要旨】

提出された学位論文「Dynamic survey of radioactive cesium concentration in cedar pollen after Fukushima Daiichi nuclear power plant accident in Japan」（日本における福島第一原子力発電所事故後のスギ花粉中放射性セシウム濃度の動態調査）は、2011年3月11日の太平洋三陸沖を震源として起きた東日本大震災にともなう福島第一原子力発電所の爆発事故により、福島第一原子力発電所から放出された ^{137}Cs の総量は $1.5 \times 10^{16}\text{Bq}$ 程度と推定され、半減期が30年と長い ^{137}Cs の環境汚染が懸念されていた。そこで、スギの葉に付着した放射性セシウムや地表に付着した放射性セシウムの吸収により、スギ花粉として再拡散する可能性があり、その影響に着目して東京都青梅市内のスギ林において独自の調査を行ったもので、初めてスギ花粉に含有される放射性セシウム濃度を明らかにした。また、この調査を2011年12月から2018年11月まで7年間に亘り継続調査した貴重な研究である。首都圏での調査報告はこの調査のみであり、放射性物質の環境影響の貴重なデータとして有用性が高いものである。

平成30年01月31日に行った最終試験での口述試験および口頭試問では、研究成果について明快なプレゼンテーションを行い、また質疑に対しては的確な応答を行った。

以上から、試験担当者は一致して、窪岡大君は首都大学東京大学院 人間健康科学研究科放射線科学域 博士後期課程の論文審査および所定の最終試験に合格したと判定し、博士（放射線学）の学位を授与することが適当であることを報告する。